

「第2回 国際スポーツ雪かき選手権 in 小樽開催」と スポーツ雪かきを利用した交流人口拡大の取り組み

観光振興委員会の 2015 年度の取り組み

昨年度、青年部として小樽市の人口問題に取り組むことになる中で、「実現が不可能かもしれないが夢があり大きな成果をもたらす事業の創出を考えること」「成果は小さくても青年部として今すぐにでも取りかけられる事業を実行すること」の2つを観光振興委員会の活動目標とした。そのような中、昨年実施された国際スポーツ雪かき選手権を目標である交流人口拡大に結びつける、柱として確実なものにする為にも本年度、昨年度の検証をふまえこれからの取り組みについて提案したい。

観光に寄与する施策の取り組みとテーマ

インバウンド誘致に魅力的な観光コンテンツを確立する

2015の取り組みを始める為に

スポーツ雪かきをインバウンド誘致に結びつけた事業は交流人口拡大に可能性があるのか？

第1回 国際スポーツ雪かき選手権の検証

国際大会実施することが目的ではないが、本来の目的である交流人口拡大の有効な手段である。

昨年度の検証を踏まえた新たな取り組み

交流人口拡大の手段として有効と判断

スポーツ雪かきを交流人口拡大のコンテンツに熟成させる

取り組みを始めた本事業を単なる年に1度のイベントに終わらせることなく、本来の目的である交流人口拡大への物語をきっちり作っていく為にも、終了後2014の取り組みを検証しその可能性を模索、2015以降の観光振興委員会の活動方針を検討、観光振興委員会の総意として本年度も主体的にスポーツ雪かきに取り組み、国際大会運営だけではなく、旅行会社との連携などを模索し冬期間通年で交流人口拡大に効果のある観光コンテンツ確立をめざすことを確認した。

スポーツ雪かきの取り組み＝国際大会実施ではない。

スポーツ雪かきを新たな観光コンテンツとらえ
小樽観光に寄与する観光商品化を模索

観光振興委員会の目的はあくまでも観光振興による交流人口の拡大である。スポーツ雪かきの取り組みに関しても、その目的に近づくコンテンツであると確信したからである。国際大会実施はあくまで小樽がスポーツ雪かき発祥の地であることを広く発信する為の手段ととらえ、委員会としては国際大会の実施によって作られる「小樽発スポーツ雪かき」というブランドを独自に熟成させ交流人口拡大につなげることを最大の目的にする。大会をフックにスポーツ雪かき発祥の地小樽の新たな観光コンテンツ創出をめざし、冬季間全般に通じる観光資源を観光振興委員会が中心となり検討し実現させるのが目標。

ACTION 1

小樽がスポーツ雪かき発祥の地として確立させる為のシンボリックな大会

国際スポーツ雪かき選手権の開催



ACTION 2

年に1度の大会だけではなくスポーツ雪かきが冬期間通じた小樽観光のコンテンツとなる仕掛けの立案

スポーツ雪かきを素材とした観光誘致施策の開発

交流人口の拡大

なぜ国際スポーツ雪かき選手権をやるのか。

国際大会実施は目的ではないが交流人口拡大の有効な手段である。

■ 持続して開催することでスポーツ雪かき発祥の地として定着、国内外にひろく発信されるから。

■ スポーツ雪かきが小樽発祥と認知されることにより地域ブランドの一つとなると考えるから。

■ 雪かきをインバウンドにも道外(無降雪地域)からの観光客にも、観光資産としてPRできるから。

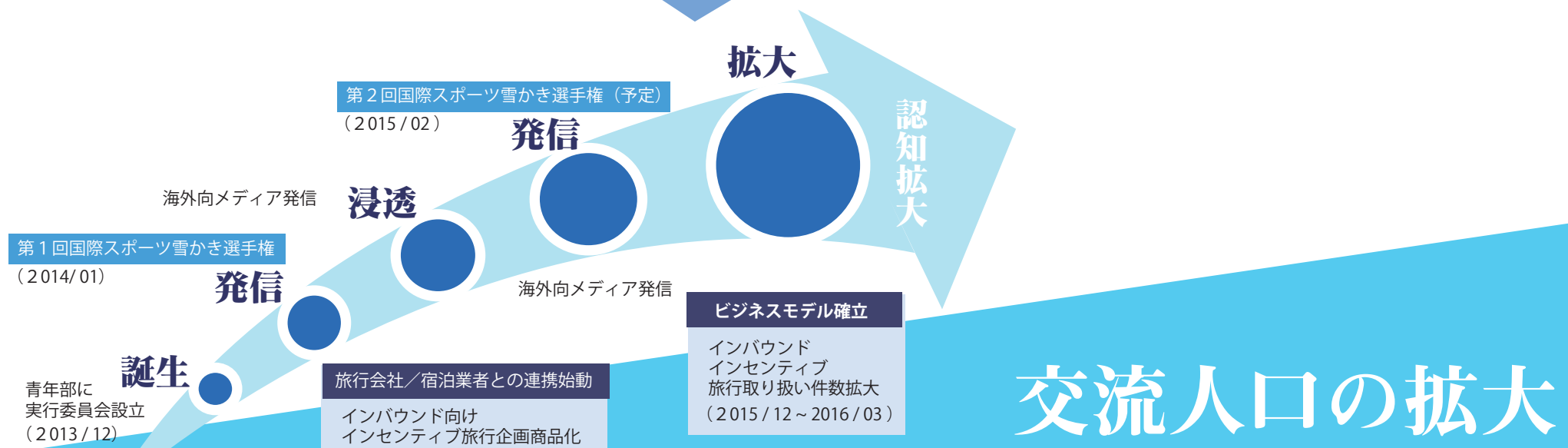
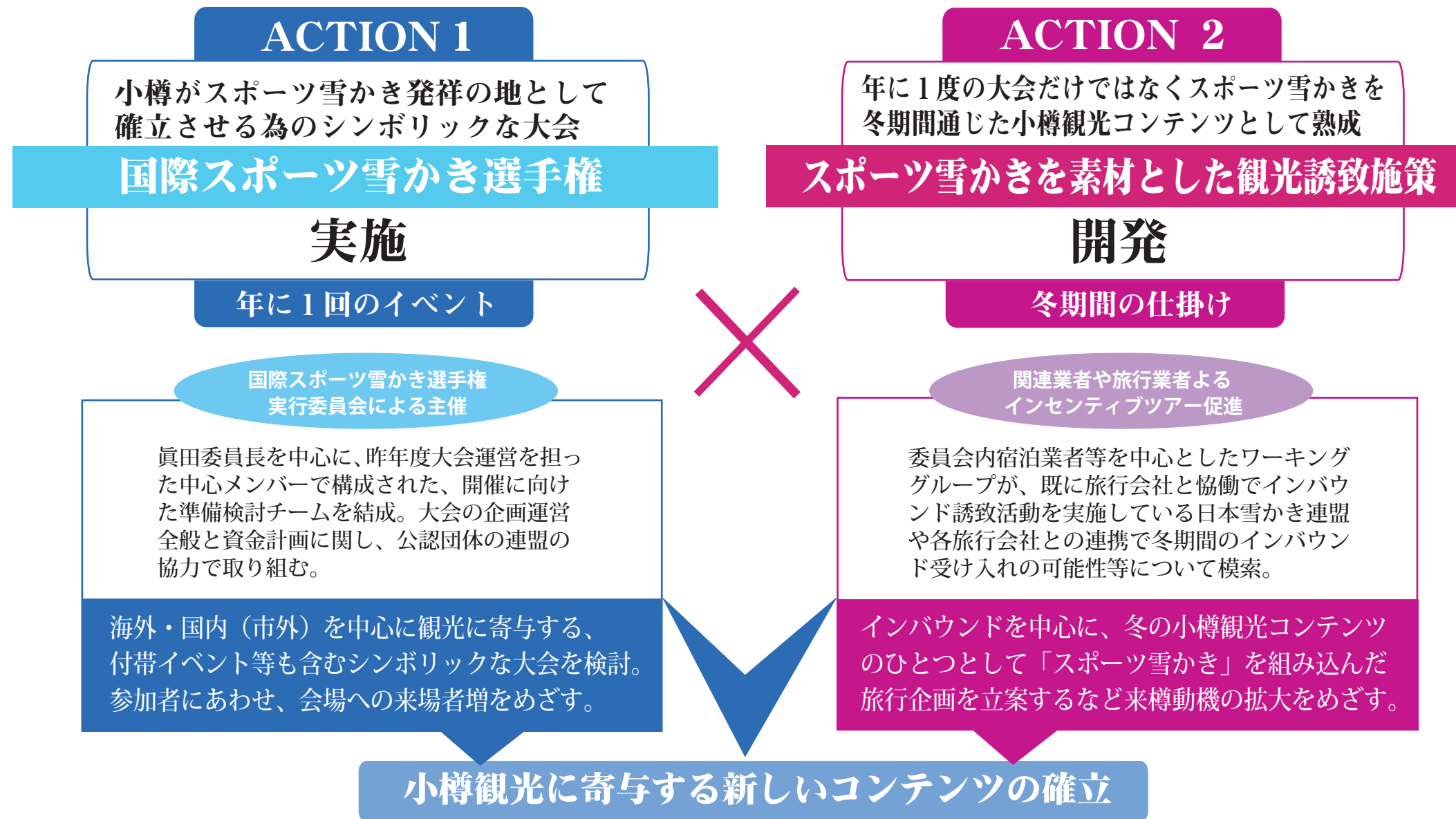
■ 大会以外冬期間通じ小樽では「雪かき」が観光資源になるという仕掛けになるから。

■ 社会貢献（ボランティア除雪）と雪かきイベントの融合が市民と観光客の交流に新たな魅力を生むから。

ACTION 1

交流人口拡大の新たな冬の観光コンテンツのシンボリックなイベント

国際スポーツ雪かき選手権の開催



交流人口 拡大策立案

POINT 1

参加者＋来場者拡大

旅行業界との連携でインバウンド誘致

JTB 北海道

日本旅行

北海道運輸局

競技内容の見直し

来場動機に繋がる付帯イベント

インバウンド誘致為のメディア戦略

HTB との連携で ASEAN に配信

連盟公式ホームページや Facebook での配信

資金計画 スポンサード

POINT 2

商工会議所青年部の事業原資

補助金確保に向けた動き

後志総合振興局の地域づくり総合
交付金獲得に向け（一社）日本ス
ポーツ雪かき連盟が申請、審査中

企業協賛獲得に向けた動き

市内企業への協賛依頼の方法検討

市外大手企業の取り込みの方法検討

スポンサーメリットの検討

協賛パッケージの作成

スポンサーメリットの明確化

事業運営 計画検討

POINT 3

日 程

インバウンドの集客に有利な春節

会 場

付帯イベントも可能なスペースの確保

運営体制

実行委員会の充実

競技内容

円滑な競技運営
レギュレーションの明確化

イベント

集客に寄与する付帯イベントの検討

国際大会以外のアクション

大会以外のインバウンド誘致施策の立案
インセンティブ旅行等の誘致

交流人口
拡大策立案
POINT 1

1. 旅行業界等との連携によるインバウンド誘致策

委員会内宿泊業者等を中心としたワーキンググループが、既に旅行会社と協働でインバウンド誘致活動を実施している日本雪かき連盟や各旅行会社との連携で冬期間のインバウンド受け入れの可能性等について模索。

JTB 北海道

- (1) 前泊プラン造成（国際大会とは別に JTB オリジナルプランとして造成する案）
市内に住む高齢者との触れ合いが最大の目的。大会前日小樽入りし、町内会館などで高齢者と座談会。翌朝、その地域でボランティア除雪を行い、お昼からは高齢者と一緒に会場入り。高齢者の応援の中、競技に汗を流す。参加人員はバス1台、30～40 名の見込み。
- (2) JAPANICAN で着地型プランとして販売
JAPANICAN は月間ユニークユーザー 100 万人。
一日の成約が約 2000 万円の旅行商品販売サイト。夏には商品プランを決めて販売を開始したい。
FIT ばかりではなく、海外エージェントも利用するサイトなので、海外への訴求力では国内最大。
- (3) 国際大会には JTB 北海道として3チーム参加希望
JTB 北海道で働く外国人を含めた多国籍チームになる予定。
- (4) オーストラリア人をターゲットに
JAPANICAN にスポ雪を掲載することで、オーストラリアのエージェントの目に留まるはず。
ホテルにもチラシの配布で協力してもらう。
JTB からのリクエスト
 - ・荷物の管理をキッチンとして欲しい
 - ・飲食は勿論のこと物販もあるといい

日本旅行

- (1) 台湾・韓国へのエージェントに提案中
HBC で放映された VTR をもって、国際旅行事業部長が直接プレゼン。中華航空が販売するダイナスティパッケージでの販売が有力。
- (2) 高雄からの直行便の開設
新規の旅行商品を探しているはずなので、取り扱ってくれる可能性は十分ある。検討中。

北海道運輸局

- (1) 招請旅行とのコラボ 2/21、22 前後に招請旅行が組めれば是非ともコラボさせて欲しい。
- (2) スノートラベルエキスポ
来年はサホロで開催されるので、旅費などのハードルはあるが、チームビルディングの候補として検討したい。

ZEE WALK

- (1) 中国上海の旅行代理店 ツアー造成が決定

四季の旅

- (1) 韓国旅行代理店 ツアー造成企画中

冬期間の交流人口拡大に向け一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟が旅行会社に企画提案、調整ヒアリングを行なった。

資金計画
スポンサー
POINT 2

スポーツ雪かきを利用した通年型光の開発については、観光振興委員会と日本スポーツ雪かき連盟、旅行業者などで構成されるワーキンググループ（後述）により検討され、事業資金については基本的に、受益者負担で行うことをイメージ。国際大会の実施については、補助金（申請中）、企業協賛等をベースにの資金計画を立てる。

安定した資金計画をめざすことが継続事業をより現実的なものとする。

1. 国際大会の資金確保の考え方

商工会議所青年部の事業原資



補助金

A. 補助金確保に向けた動き

後志総合振興局の地域づくり総合交付金獲得に向け（一社）日本スポーツ雪かき連盟が申請済、審査中。

<地域づくり推進事業>

地域の創意と主体性に基づく地域の特性や優位性を生かした取組の促進を図るため、市町村等（第2で定める交付対象者をいう。次号において同じ。）が地域課題の解決や地域活性化を目的として取り組む各種事業に要する経費について、予算の範囲内で交付金を交付する。

* 地域づくり総合交付金制度要綱より抜粋

B. 企業協賛獲得に向けた動き

協賛金

スポンサーメリットの明確化を図り市外大手企業のスポンサー獲得を図り、市内協賛負担削減をめざす。

<市外大手企業の取り込みの方法検討>

市内企業への協賛依頼の方法検討し一部会員企業等に過度な負担を強いる事のないような方法が必要と考える。また、スポンサーメリットを明確にする事によって、昨年度は叶わなかった大型スポンサー獲得をめざす。

市内企業への協賛依頼の方法検討
市外大手企業の取り込みの方法検討
スポンサーメリットの検討
協賛パッケージの作成

<収益明細>

科 目	摘 要	金 額
事業繰入金	小樽 YEG より繰入	500,000
寄付金収益	企業協賛	1,020,000
補助金	北海道からの補助金（申請中）	1,600,000
合 計		3,120,000

<費用明細>

科 目	摘 要	金 額
会場設営費	入口ゲート作成	180,000
	道路占有許可料	2,500
	バルカンヒーター	6,750
	発電機	3,240
	ゴミ処理費	32,400
	仮設トイレ	108,000
	排雪シャベル	36,720
	排雪ダンプ	16,200
	パワーショベル	96,000
	運搬ダンプ	52,000
	積み込みショベル	32,000
	メイン会場設営除雪	73,440
	音響レンタル・オペレーション	162,000
	メイン会場使用料	50,544
	雪山作成用型枠	50,500
	小 計	902,294

企画演出費	賞状作成	20,000
	ゼッケン作成費	30,000
	式典／競技 MC	70,000
	通訳	80,000
	警備員	25,920
	スコップ ×50 連盟よりレンタル	10,000
	スノーカート ×50 連盟よりレンタル	10,000
	シャベル ×100 千年の森よりレンタル	0
	防寒ゴム手袋 ×100	37,800
	ポリタンク ×50 雪あかりよりレンタル	0
	灯油代 98 円 ×106L	10,388
	ガソリン代 160 円 ×5L	800
小 計		294,908
保険料	イベント保険	33,440
	小 計	33,440
資料作成費	パンフレット作成費	100,000
	パンフレット翻訳費	80,000
	小 計	180,000
広報宣伝費	CM 費 (Hello! Japan チャンネル LOVE HOKKAIDO)	500,000
	新聞広告費 (道新イベント告知)	500,000
	Web プロモーション費 (予約サイト Japanican で告知)	200,000
	Web サイト制作運営費 (デザインリニューアル・管理)	300,000
小 計		1,500,000
報告書作成費	記録映像作成報告者作成費	100,000
	小 計	100,000
旅費交通費		100,000
	小 計	100,000
予備費		9,358
	小 計	9,358
		3,120,000

事業運営
計画検討

POINT 3

インバウンドの確実な抱え込みを目指すため、開催時期を2月の春節に合わせるとともに、1日で完結するプログラムを検討。また、交流人口拡大を達成する為に会場内での飲食・物販ブースの設置、雪遊びコーナー等を検討し市民や観光客の集客につなげる。

日程	2015年2月21日(土)または22日(日)の1日間		
会場	勝納埠頭 特設会場		
運営体制	小樽商工会議所青年部が中心となった実行委員会		
競技内容	ボランティア除雪 + ＜競技1＞スノーショベリング&ムーブトライアル ＜競技2＞スノーマンコンテスト		
イベント	懇親パーティー	参加者と市民、スタッフ等が交流できる懇親会を想定、閉会式表彰式もかねる。	
	会場内飲食ゾーン	参加者来場者が利用出来る飲食ブースを設置する事で来場動機を拡大させる。	
	雪遊びコーナー	子供達が雪だるまを作ったり出来るスペースやの滑り台等を検討、ファミリー層を確保。	

国際大会実施以外の
インバウンド誘致に
向けたアクション

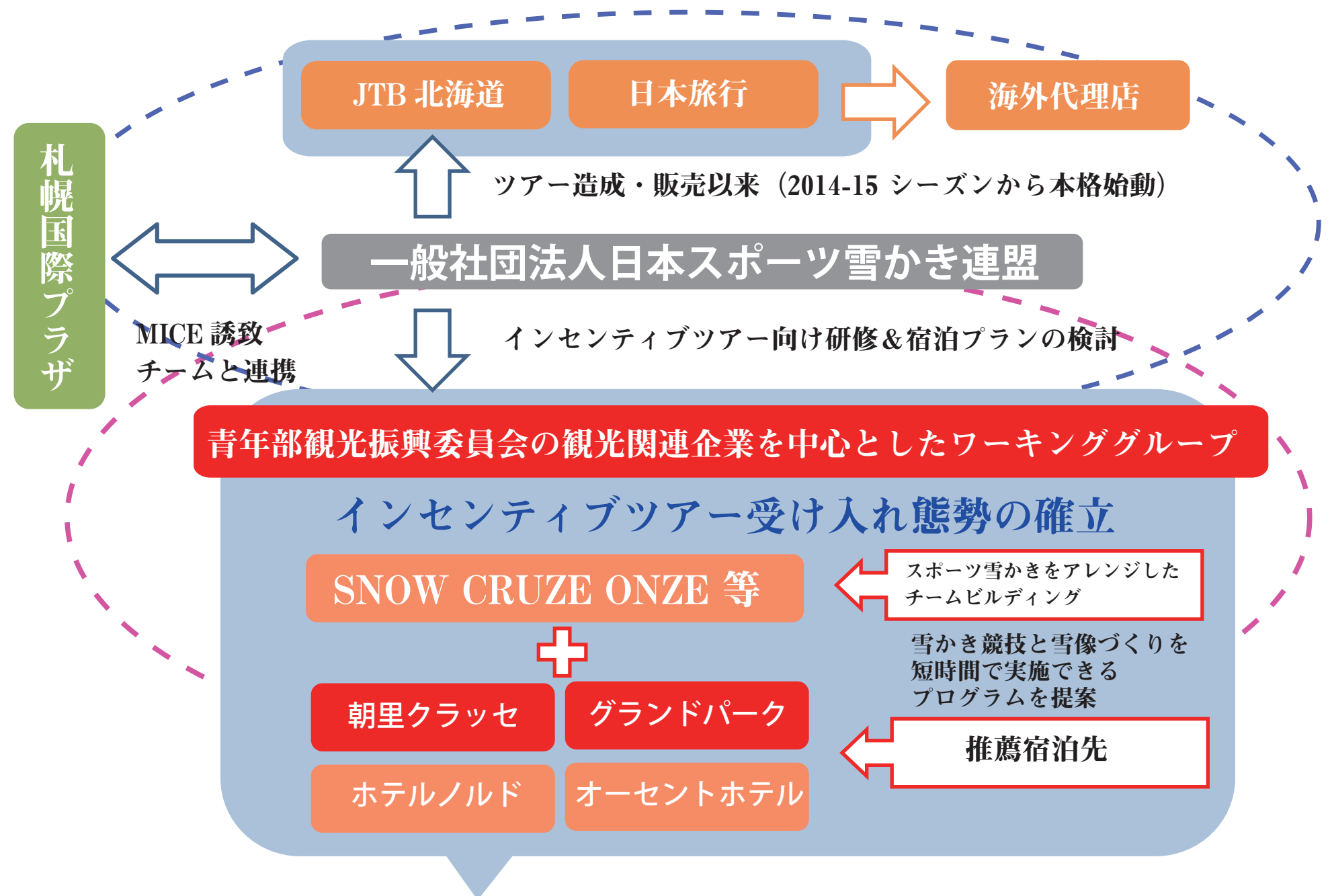
スポーツ雪かきを利用した冬期間を通じた観光誘致の取り組み
青年部観光振興委員会内の観光関連会員が中心となりインセンティブツアー等の実施に向け活動する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
週目	3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2
大会日											→
費用対効果分析提出			→								
準備委員会立ち上げ				→	→	→					
実行委員会立ち上げ						→	→	→	→	→	→
参加者申込受付						→	→	→	→	→	→
協賛金募集							→	→	→		
本会場選定							→	→			
本会場決定調整								→	→		
ボランティア除雪会場選定							→	→			
ボランティア除雪会場決定調整								→	→		
懇親会場選定							→	→			
懇親会場決定調整								→	→		
旅行代理店との打ち合わせ			→	→	→						
プロモーション計画の構築				→	→						
プロモーション素材準備				→	→	→					
プロモーション(インバウンド重視)						→	→	→	→		
プロモーション(国内重視)									→	→	→
参加チーム募集						→	→	→	→	→	
委員会(最低月4回実施)	→	→	→	→							



スポーツ雪かきを利用した冬期間を通じた観光誘致の取り組み

既に旅行会社とスポーツ雪かきの旅行企画を進めている一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟と連携
青年部観光振興委員会内の観光関連会員が中心となりインセンティブツアー等の実施に向け活動する。



用語解説

*インセンティブツアー

企業（組織）根拠が成績優秀な社員や取引先代理店などを対象に「報償」として、更なる研鑽をしてもらう為に企画される旅行。

*MICE

Meeting（会議・研修・セミナー）
Incentive tour（報償・招待旅行）
Convention または Conference（大会・学会国際会議）
Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語でビジネスラベルの一形態をさす。

*チームビルディング

ある特定のチーム課題や目標に対して、役割を分担し一定のルールのもとにタスクを課題解決に集中。リーダーシップやメンバーシップを発揮しあってコミュニケーションをはかり、シナジー効果を生むこと。

スポーツ雪かきを利用し国際大会以外のインバウンド誘致に積極的に取り組む
冬期間交流人口拡大のビジネスモデル確立をめざす。